

「仕の掟」次代に教え

新教科書に「日新館」

「ならぬことはならぬものです」

白虎隊の学びやとして知られる會津藩校日新館（會津若松市）が、2011（平成23）年度の小学6年・社会科の教科書に採用されたことが11日、分かった。大手の東京書籍が出版することになり、社会6（上巻）に写真入りで掲載、「ならぬこととはならぬものです」の會津藩士の心構えを定めた「仕の掟（じゅうのおきて）」などを紹介している。會津藩士の精神をはぐくんだ同館の教えが、全国の子どもたちの成長の道しるべになる。

全国児童の道しるべ



仕の掟

一 年長者の言にことごとく
一 年長者には仰付候
一 仕はけりし事なりませぬ
一 忠告を聞きしことばはなりませぬ
一 忠告を聞きしことばはなりませぬ
一 弱いきちめてはなりませぬ
一 戸外で始末をせしはなりませぬ
一 戸外で始末をせしはなりませぬ
一 又てはなりませぬ
一 又てはなりませぬ

仕の掟が書かれた看板

この教科書は「江戸時代の武士の学校」という項目で全国各地の藩校を紹介、そのメインとして同館を取り上げた。「うそをつかない」「弱い者いじめをしない」など7項目からなる「仕の掟」は写真入りで分かりやすく解説。弓や馬術、やり、鉄砲など多様な武芸が学ばれ、厳しい進級や修了試験があったことなど、同館の「文武両道」を重んじた教育方針も紹介している。

この教科書が来年度、全国の何校で採用されるかは未定だが、本年度は本県を

含む44都道府県、約1万1千校で採用された実績があり、約60万冊が出版されている。編集を担当した東京書籍小学校社会編集部副部長 堀仁宏編集長(45)は、同館を取り上げた理由について「仕の掟は、当時の武士の教育内容を非常にイメージしやすく、児童たちにも、今の学校と当時の学校を比べやすい」と指摘。また、「現在でも教育施設として活用され、見学施設としての価値も高い」と評価する。

同館の宗像精一郎(77)は「日新館の教育理念を日本の教育に役立ててもらえることは大変名誉。文武両道の精神を子どもたちに知ってもらいたい」と話した。



全国の小学校に紹介される 會津藩校日新館